

志望校	慶應義塾大学 文学部
-----	------------

回数 科目\時期	3~4月	4~5月	5~6月	6~7月	7~8月	8~9月	9~10月	10~11月	11~12月	12~1月
英語	スピード 英文法のおさらい用問題集。問題数の割に網羅的なので、完璧にこなしていこう。	ここだ 短文解釈の導入。一文一文自分で和訳していくという作業に頭と体を慣らす一冊。	必精 本格的な精読に入る。核となる文法や構文から英文を読み解いていく。これも一文ずつ自分の手で丁寧に和訳していこう。例題は下線部以外も訳す。 <文法編> ; <構文編>	マ長基&マ長応 センターレベルの長文の読み慣れ。必要な知識は身につけているはずなので、長文に少しずつ慣れていけるよう文章を何度も読む。一月に一冊のペースで進めていく。	Next 文法語法用の問題集。センター対策も兼ねて。 <1-11> ; <12-19> ; <20-30>	(予備期間)				
	1100 高1~2レベルの単語集。文法と同じく、穴を埋めていく目的で採用した。 <section1~2> ; <section3~5>	Duo 受験単語集。例文ごと覚える形式。覚える単語は見出し語だけで十分だが、CDはリスニング対策にもなるのでむしろ耳から覚えるつもりで進めていこう。	構ブラ 精読の仕上げ。知識総整理。 <第部> ; <第部>	精ブラ 記述中心にや 難問を。	速ブラ 同様に客観式の演習を積む。					
日本史	超速 最初の2冊をまず3~4回繰り返し読み、残りを夏までに3~4回。 <日本史の流れ>と <日本近現代史の流れ>	書き込み 上の超速をの最初2冊をある程度読み進めたら、後を追うようにこちらを。超速で流れをつかみ、こちらで教科書の太字レベルの知識を定着させていく。空欄を埋め終えた後も3~4回読み直す。	はじめる50 前の2シリーズで習得した知識の確認。問題演習を通じて知識をする。穴埋めと読みで埋めきれなかった知識の漏れを問題演習形式で埋め、更なる定着をはかる。ここまでは100%マスターを目指そう！以降、より細かい知識の整理と記述対策を並行する。	実力100 実戦的問題集。私大向けの細かな知識も一通り学べる。これをこなせば過去問にも対応可能。	攻める 過去問を解いてみた後、特に苦手な分野があればテーマ別なのでセレクトしてやってみよう。					
	ちからダ! 現代文のキーワードを習得。文章を読む前提として少し難解だが頻出の語句の意味を把握し、有名な思想家の主張を理解する。気分転換に。	開発講座 現代文用のテキストだが、ようやく問題の方法論・練習も含まれているので読んでおきたい。	なるほど 小論文&要約のポイントを学ぶ入門書。	考える 記述・説明問題対策。受験生の目線に立って書ける文章のポイントを学べる。	トレ 論述演習用。「考える」で学んだことを実践してみる。50~150字の問題に絞ってやってみよう。					
小論文	左の参考書は要約対策。(小論文とはいえ、人文系の文章を読ませた上で自分の意見をまとめるものなので、要約能力は必須なのです。)小論文対策は他人に添削してもらうことが不可欠ですので、必要があれば、小論文の通信添削を勧める場合があります。困ったことがあればいつでも言ってください。									

志望校分析&計画のアウトライン

センター試験		科目別 一覧表	二次・個別試験	
目標点	配点		目標点	配点
		英語	100	150
		日本史	70	100
		小論文	50	100
		合計	220	350

慶應大学は私立の最難関ですから相応の学力が求められます。科目は3科目のみ、しかも対策のしづらい小論文もあるので英・日でしっかり点数を取っておかねばなりません。各科目について気付いたことを挙げておきます。英語は長文ですが、辞書は持ち込み可。とはいえ、本当に難解な語だけは調べる、というのが原則。「紙の」辞書の扱いに慣れておく必要があります。私大ですが、内容説明、英訳と出題形式は豊富なので様々な対策が必要です。3科目の中で一番優先すべき科目です。日本史もマーク式ではなく、記述式。私大らしく細かい知識も問いつつ、50~150字の記述・論述問題もあるので、幅広い対策が必要。外交史、文化史もよく出題されるので注意。最後の小論文は人文系の文章を読んだ上で自らの意見を述べさせるもの。一人でできることはこれらのテーマの本に普段から慣れ親しんでおくこと。赤本(過去問)の文章をまず一通り読んでみてから著者のほかの作品など関連するものに広げていけば良いでしょう。書く練習が絶対必要なので秋以降に添削を勧める場合があります。

科目別志望校分析&計画のアウトライン

以上をふまえて作成した計画の内容について説明します。

<英語> スタートレベル判定テストの結果から基礎にそこまで不安はないので、知識の穴を補充すると意味で文法・短文解釈をおこないます。その後精読(英文を全訳することで必要なイディオムなどの知識を習得し、正確な構文把握に努める訓練)に移りますが、残り時間の関係から「必精」一冊で大体仕上げます。もっとも、その後に演習を行うので足りないことは補っていけます。量は多くないですが、読んだ文章を何度も読みこんで復習することが大事です。秋から英訳・語法問題対策も入れていきます。

<日本史> まずは教科書レベルの知識を習得していきます。全体的な流れをざっとさらいながら、記憶の核となるべき知識を入れていきます。繰り返しが大切です。その後演習用問題集で段階的に知識の細かさ上げ、論述対策も並行してしていきます。

<小論文> 上で述べた通りです。「書く」を鍛える前にまず「読む」を鍛える必要がありますので、夏までは読むことに力点を置きました。それ以降は書くこともやっていかななくてはなりません。通信欄で相談しながら状況に合った対策を考えていきましょう。

生活・勉強法のアドバイス

1コマ=90分として1日1~2コマ(英語0.5~1、日本史0.5~1、小論文0.5)が理想です。但し、時間がないと思われるので机に向かう時間がなくても電車内などを利用してなるべく1日1科目は触れてほしいと思います。優先順位は英 日 小の順です。

土日(休日)の使い方は大事なので、特に有効利用を心がけてください。(通信欄を参照してくださいね。)短時間集中、メリハリのある学習を心がけましょう!

それでは、入試までの約一年間よろしくお祈りします。私も精いっぱい頑張ります。一緒に合格を目指して頑張りましょう!

緑鐵受験指導ゼミナール

03-3814-4338 (平日13時~18時)

〒113-0033 東京都文京区本郷3-5-4 朝日中山ビル2F

